

# 海外生活 エッセー

ニューヨーク事務所

## チップ文化の現在地

(一財) 自治体国際化協会ニューヨーク事務所 阿部 里美 (高知県派遣)

日本の方をご案内する際、日本ではほとんど見られない文化であるためか、「チップ」はよく話題に上ります。今回は、米国におけるチップの歴史や現状について紹介します。

### → チップの歴史

タイム誌(注1)によると、チップはヨーロッパで生まれ、その文化を旅行で体験した米国の富裕層が1850年代から1860年代あたりに持ち込んだそうです。当初は「他人を見下すよう(な仕草)だ」「階級差別的だ」と批判を浴び、この考え方はヨーロッパにも広がるほどでした。しかし米国では、顧客がチップを払う中で、同時期に起きた南北戦争(1860年代)前後に解放された元奴隷の方は、依然低賃金での労働を余儀なくされ続けました。その後、いくつかの州でチップを禁止する動きがあったものの、いずれも違憲と判断されました。

### → チップは重要な収入源/もはや任意ではない!?

実際のところ、従業員にとってチップはどのくらい重要なのでしょうか。チップが給与に占める割合ですが、レストラン従業員の場合、全米平均で約23%に上ります(注2)。また多くの州で、雇用主が支払う賃金と従業員が顧客から受け取るチップを合わせて最低賃金を満たせばよい、という制度になっています。こういったことから、チップをもらうことが前提の給料が支払われている人々にとって、チップは非常に重要な収入源であることがわかります。

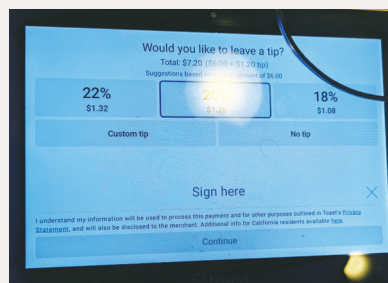
### → 端末を利用した支払方法

最後に、近年レストランで一般的に採用されている、電子端末を利用した会計方法について説明します。

まずレジにて従業員が、注文した分の金額を計上します。その金額を確かめたのち、クレジットカードを端末にタップまたは差し込みます。すると、次のような画面

が表示されます。これは、おすすめのチップ割合を表示する画面で、ニューヨーク市周辺だと「18%・20%・22%」「20%・22%・25%」といった三段階が多いです。支払いたい割合を選択(またはお好みの割合やチップなしを選択)したら、サインを記入して支払い完了です。なお、このチップ割合を選ぶ場面では、顔をそむけて見ないようにして下さる店員さんもいらっしゃいます(それでも、18%未満を選ぶのにはかなり勇気が要ります。サービスが不十分だったとの意思表示だと受け止められることがあるからです)。その後、レシートを受け取るかどうか、あるいはどう受け取りたいか確認されます。こういった端末による会計はどちらかというとし新しい・カジュアルなお店で多い印象で、老舗ステーキ店のような昔ながら・高価格帯のお店では紙のレシートを使った支払方法が採用されているところもあります。

地域ごとにチップ文化の様子は異なります。本稿はアメリカにおける状況についてのものですので、ご留意いただけますと幸いです。



画面に表示されたおすすめのチップ割合。ニューヨーク市近郊では最低18%からが多いです

(注1) Rachel E. Greenspan, “‘It’ s the Legacy of Slavery’ : Here’ s the Troubling History Behind Tipping Practices in the U.S.”, TIME [https://time.com/5404475/history-tipping-american-restaurants-civil-war/] (最終検索日: 2025年12月23日)

(注2) Square, “Square’ s Fall Quarterly Restaurant Report: Full-Service Restaurants See Higher Wage Growth, Corresponding to Increased Inflation”, [https://squareup.com/us/en/press/fall-restaurant-report-2024] (最終検索日: 2025年12月23日)